

- 本県のスギ素材生産量は、平成3年から連続して日本一であるが、伐採や造林などの事業量の拡大による労働力不足や、林業就業者の高齢化が進んでおり、担い手の確保が大きな課題となっている。
- このため、「みやざき林業大学校」において、本県林業・木材産業のニーズに対応した各種研修を効果的に実施し、実践的な人材を育成した。

事業内容

1 「みやざき林業大学校」担い手育成総合研修事業

- 実践的な知識や技術、技能の習得に加え、意欲と能力のある林業経営者の養成及び青少年への森林・林業教育等を実施

【事業費】97,579千円（うち譲与税67,672千円）

【実績】

①みやざき林業大学校「長期課程」：20名

実践的な知識や技術・技能を身に付け、即戦力となる人材の育成

②みやざき林業大学校「短期課程」、「経営高度化課程」：140名

林業作業士養成研修、高度架線技能育成研修等

③みやざき林業大学校「公開講座」：46名

高校生への森林・林業教室等

取組の背景

- 本県の林業就業者は、長期的には減少傾向で高齢化が進んでいる。
- そこで、平成31年度に開講したみやざき林業大学校において、新規就業者の育成や現場技術者の更なる専門技術の習得等の研修を実施し、林業就業者の確保・育成に取り組んでいる。



（長期課程：第6期生）



（公開講座：高校生への森林・林業教室）

工夫・留意した点

- 長期課程では、林業の基礎から技術習得のための実習に加えICT等最新技術等を学ぶとともに、林業就業に必要な（全国の林業大学校で最多の）17の資格を取得。
- 民間企業や林業事業体、行政が一体となった就学・就業・定着を見据えたオールみやざきの支援体制を構築（サポートチーム：令和7年3月末現在で102団体）。

取組の効果

- 新規就業希望者やデジタル技術、ICT等の最新技術にも精通した現場技能者等など、実践的な人材を育成ができた。
- 受講生が安心して講習に専念できる研修環境の整備、研修体制の充実及び積極的な広報・募集活動ができた。

基礎データ

①令和6年度譲与額：200,856千円	②私有林人工林面積（※1）：230,240ha
③人口（※2）：1,069,576人	④林業就業者数（※2）：3,587人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より